

成長因子とゲル状媒体からなる顎骨壊死、顎骨骨髓炎、 抜歯窩治癒不全の予防剤、治療剤の開発

柳生 貴裕 Takahiro Yagyuu

口腔外科学／講師

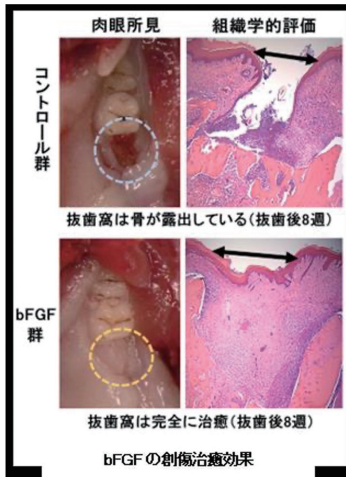
臨床

- キーワード 顎骨壊死、成長因子、技工
- 対象疾患 顎骨壊死
- 研究フェーズ 非臨床

シーズ概要

ゼラチン等に成長因子を組み合わせて抜歯窩に填入することで、歯肉、歯槽粘膜の再生などを促進させ、抜歯により発症する顎骨壊死を有効に予防できることを発見した。

ゼラチンに成長因子を担持させた製剤は、顎骨壊死、顎骨骨髓炎または抜歯後治癒不全の予防が可能であることを示しており、創薬化への応用可能性を秘めたシーズである。



研究成果の応用可能性

薬剤関連顎骨壊死などの難治性骨疾患に対する新規治療薬、予防薬開発の可能性

関連文献／特許

- 1.Imada M, Yagyuu T, et al. Prevention of tooth extraction-triggered bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaws with basic fibroblast growth factor: An experimental study in rats. PLoS One. 2019 Feb 8;14(2):e0211928
- 1.発明名称:『歯肉および歯槽粘膜の再生促進作用に基づく顎骨壊死、顎骨骨髓炎または抜歯後治癒不全の予防に用いる予防剤』
出願日:2018年1月18日
出願番号:特願 2018-006198
特許査定日:2022年7月4日